



INTERNATIONAL NETWORK for the PREVENTION OF ELDER ABUSE



INPEA の 2007 年度国際ロザリー・ウルフ記念賞 (INPEA's 2007 International Rosalie S. Wolf Memorial Award in Elder Abuse) について

高齢者虐待防止国際ネットワーク (INPEA) は、高齢者虐待を社会問題であると位置づけ、国際的な協力によって高齢者虐待を予防するための社会の力を高めることを目的とする国際ネットワーク組織です。INPEA は、2007 年度の国際ロザリー・ウルフ記念賞の受賞者を、日本の多々良紀夫氏に決定したことを発表しました。この賞は、その年に世界で最も活躍した高齢者虐待を専門とする研究者に与えられる名誉ある賞です。

この賞の授賞式は、今年は 2007 年 6 月 15 日にスイスのジュネーブの世界保健機構 (WHO) の本部で行われます。これは、INPEA が、国連の助言機関として、WHO や国連非政府組織高齢化委員会 (UN NGO Committee on Aging) に対して、世界の高齢者虐待問題の対応に関する助言をしている関係からです。

さて、INPEA は、昨年から 6 月 15 日を「世界で高齢者虐待を考える日」 (WEAAD : World Elder Abuse Awareness Day) と定めて、各国で様々な記念行事を行いました。昨年の第 1 回目の WEAAD には、WHO と国連 NGO CoA の協賛を得て、ニューヨークの国連本部で、イベントが行われました。INPEA 日本国委員会 (事務局代表 塚田典子 日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科教授) は、日付変更線の関係で、世界で初の WEAAD のキックオフイベントとなる日本の WEAAD のイベントを、2006 年 6 月 15 日 (ニューヨーク時間では 6 月 14 日) に、淑徳大学池袋キャンパスで開催しました。24 名の参加者がありました。

本年度の第 2 回となる WEAAD 記念行事は、WHO が 6 月 15 日を「世界高齢者虐待防止の日」と定めたことから、WHO の本部で「高齢者虐待のグローバル・シンポジウム」をメイン・イベントとして、6 月 14 日と 15 日の 2 日間にわたって開催されます。世界の多数の国から INPEA や国連関係者が、このシンポジウムのためにスイスのジュネーブに集まることになっています。先に述べた、多々良氏の国際ロザリー・ウルフ記念賞の授賞式は、このシンポジウムの 2 日目 6 月 15 日の最終イベントのハイライトとして予定されています。

多々良氏は、その日の午前中のプログラムで、高齢者虐待防止法を含む、日本の複数の家庭内暴力防止法の意義や概要を発表することになっています。

なお、ご参考までに、この国際記念賞をこれまでに授与された世界の高齢者虐待の研究者は、以下の通りです：

- ロンドン医科大学教授故 Gerry Bennett 医学博士(イギリス)
- INPEA 現世界会長 Lia S. Daichman 医学博士 (アルゼンチン)
- 元国際老年学会 (IAG) 会長 Gloria Gutman 老年学博士 (カナダ)、および
- WHO 現高齢者問題担当部長 Alexandre Kalache 医学博士、疫学博士 (ブラジル) の 4 人です。

今回の多々良紀夫哲学博士のウルフ記念賞の受賞は、審査委員会において全会一致で決定されたと聞いております。多々良氏は、アメリカ公的福祉協会 (APWA) 研究調査部の部長時代の 21 年間 (このうち 10 年間は米国高齢者問題研究所の初代所長を務める) と淑徳大学における 9 年間を含む合計 30 年間余にわたって世界的な規模で福祉の問題や高齢者虐待の研究に取り組まれてきた研究者です。日米あわせて 20 冊以上の著書、60 本近くの学術論文、そして 100 冊以上に及ぶ研究報告書の業績があること、さらに、日米で 50 に及ぶ研究プロジェクトを通して多くの研究者や実践者を指導し、育てて来られたことを考えると、今回の氏の受賞はうなずけるところです。

最後に、Rosalie S. Wolf 老年学博士について少し付け加えさせていただきます。Wolf 博士は、マサチューセッツ大学老人研究所を拠点として、40 年余にわたって、高齢者虐待を含む高齢化の問題について研究をされた世界的に著名な研究者です。私も GSA (米国老年学会) でお会いしたことがあります。大変知的な方でした。今回国際ロザリー・ウルフ記念賞を受賞される多々良氏は、Wolf 博士が 2001 年 7 月に亡くなるまでの 20 年近くの間、幾つかの共同研究プロジェクトと一緒にされたと聞いております。1999 年秋には、多々良氏の招待により、研究と講演のために来日されたこともあるそうです。文献検索をすると皆様もお分かりになると思いますが、Wolf 博士の多くの著書や研究論文・報告書は、彼女の後に続く我々多くの研究者の重要な参考書となっています。

2007 年 5 月吉日

INPEA 日本国事務局代表

塚 田 典 子